

《21世紀に向けて機電社員の夢づくり》

①新技術と機電社員					
【6班】 (株)青木建設 住友建設(株) (株)銭高組 不動建設(株)	機電部門技術者の位置付け				
		A社	B社	C社	D社
	本社勤務		10数名	10名	5名
	技術研究所勤務	0名	0名		6~7名
	機材センター勤務	数名		5~6名	20数名
	子会社出向		約90名		約10名
	現場勤務(機電系担当)	0名	0名		40~50名(全国)
	現場勤務(土木系担当)	支店内に5~6名			
	作業所所長	0名	0名	数名	5~6名
	新技術に対する機電社員の関わり				
<p>A社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案は技術研究所が中心。(機電社員はいない) ・メーカーと共同開発。 ・主に汎用機械の改良。 ・現場実験等は機電出身社員が中心になって行う。 <p>B社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案は本社のワーキンググループにて実施。 ・機電社員1~2名の参加。 ・現場からのフィードバック的な開発ではない。 <p>C社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案は本社技術開発部が中心。 ・開発時点で機電社員が参加できない <p>D社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技研と本社・機材センターで独自に提案。 ・本社と技研とのつながりは少ない ・現場実験等にて技研の開発について現場のフォローが少ない。 					
対応策					
<ul style="list-style-type: none"> ・新技術を開発して形が出来る前に現場として開発に参加したい。 ・技術研究所、本社、現場や土木、機電、建築などの定期的な情報交換をもつ。 ・メーカーとの情報交換。 					
将来展望					
<ul style="list-style-type: none"> ・機電、土木、建築の垣根をなくした社内外のワーキングによる開発を行う。 ・現場、機材センターの人材を提案時から開発に参加させるような全社的な取り組みによる開発を行う。 ・機電社員がメーカーに出向するような機会を持ち、機電社員各々の技術的な向上を目指す。 					

《21世紀に向けて機電社員の夢づくり》

②建設業における環境と安全	
<p>【6班】 (株)青木建設 住友建設(株) (株)銭高組 不動建設(株)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">現状</div> <p style="text-align: center;">環 境</p> <p>作業環境、自然環境 濁水処理、産廃、リサイクル 騒音 イメージアップ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">問題点</div> <ul style="list-style-type: none"> ・規格と現実の違いがある。 (例として濁水処理の能力表示が現場排水 現状に合っていない。) ・産業廃棄物について自治体、省庁、局で 取扱いが異なる。 ・現場でスペース的な制約が多くなってきた。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">対策・対応</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「快適職場」認定の取得。 ・作業環境の標準化を目指した改善を行う。 ・ISO14000に対する全社的な取組み。 ・産廃問題については、他産業との総合的 取組みを目指す。
	<p style="text-align: center;">安 全</p> <p>電氣的・機械的な安全、主としてクレーン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故に対する過去の経験が生かされていない。 ・クレーン等の走行、旋回について詳細の規定 があいまいである。(ユーザー任せ) ・公共工事では安全費がない。 <ul style="list-style-type: none"> ・使用者に対し安全装置(機械的・電氣的)に対する 教育を行う。 ・安全装置に対する公開の場を設ける。(メーカーを含 めた建設業全体での標準化を図る) ・新技術に対する安全への取組みを行う。 (例として、大深度対応クレーンの開発、それに対す る安全装置の装備)